

普通だけど普通じゃない！宮代町の「ヒト・モノ・コト」を集めた PUNCH な冊子！

PUNCH

1

創刊号

みやしろ

本誌に掲載させていただいたPUNCHな方々。（掲載号順・50音順）



裏表紙では、これまで本誌に掲載させていただいた方の似顔絵イラストを掲載しています。発行を重ねるごとに人数も増し、どんどんイラストは小さくなっていきます。目指すは町民と宮代に関わる人、全員掲載！

■ 創刊号の目次

2P: 「みやしろPUNCH」創刊にあたって

3P: 象設計集団 富田玲子さんにお話を伺いました

今号の題字 樋口裕康さん

4P: 宮代町立図書館 館長 清水恭久さんの行動を追う！

5P: 鈴木鉄工所 鈴木政義さんのお仕事に迫る！

6P: 「カー&ファッション」土淵保美さんに注目してみた。

7P: 農工房 奈味 並木幸夫さんの歳時記。

8-9P: PUNCHさんがゆく

10-11P: みなさまのアルバムから

12P: かしたま文庫 野口和子さんにお話を伺いました。

13P: 姫宮成就幼稚園 斎藤恵子さんにお話を伺いました。

14P: 小学生にレンズ付きフィルムを渡してみた。

15P: パロキアの記憶



宮代町地域資源発掘情報誌「みやしろPUNCH」創刊号

初版：2019/09/25 発行

発行元：宮代町立 コミュニティセンター進修館

（指定管理者：特定非営利活動法人 MCAサポートセンター）

住所：〒345-0822 埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1 TEL/FAX：0480-33-3846

URL：http://www.shinsyukan.or.jp E-mail：info@shinsyukan.or.jp

コミュニティセンター進修館は、象設計集団によって設計されました。建築家の富田玲子さんは、同じく建築家の樋口裕康さんなどといっしょに、象設計集団のメンバーとして進修館の設計に関わりました。富田さんは常々「宮代はおもしろいまち」とおっしゃいます。富田さんにとっての「おもしろいまち」とは、一体どんなまちなのでしょう。



富田玲子さん
コミュニティセンター進修館を設計した「象設計集団」の創始者のお1人。現在は「象設計集団東京事務所」に所属。

現在「象設計集団東京事務所」がある東京都世田谷区の喜多見は、とても静かな住宅地です。事務所の前の道は閑散としていて、人も車もたまに通るだけで真ん中を歩いても大丈夫なくらい。猫もたくさん見かけます。昼間は人々が出はらっているという感じですが。お店も少ししかありません。近くにある小学校の下校時に、見守りの放送があっても、肝心の見守る大人があまりいないような気がします。つまりまちとしてはあまりおもしろくないのです。それでも最近は若者が増えてきましたので、これからどうなるでしょうか？

宮代町にはいろいろな「音」がありますね。ジェットコースターの音、子どもたちの声、鳥の声、車の音……。音が豊かなまちだと思います。豊かな音のまちは良いけれど、うるさい音のまちはいやですね。小さな中心がいくつもあるのは「おもしろいまち」。その中心ではお店では知らない人が出会ったり、その人たちがお店からあふれ出たり、誰かが楽器を演奏していたり。

先日青森を訪れたときのこと。にぎやかな大通りからちよつと入り組んだ小さな広場がありました。その広場には木陰があり、小屋が3つくらい建っていて、ガラスの球を使って大道芸の練習をしている少年がいました。この景色をみて「この広場には、きつとおいしいものがあるぞ」と思っていました。と、やっぱり！その周囲にイタリア料理や中華料理、メキシコ料理のお店が並んでいました。「前日から日



世田谷区玉川田園調布の「えんがわinn」にて。

本料理に十分満足していたというお腹の時、メキシコ料理は絶対食べられる！」と思って店に入ると、若い人たちがたくさん集まっていた。初めて会った人たちですが、頼みすぎたからと料理を分けてくださった。とても楽しい時間を過ごしました。

おいしいものがあつて、安心して歩ける道がある。大人も子どもも一緒に集まるような広場があつて、小さな中心になっている。そしていろいろな音がある。公民館や学校も、こうした広場になるといい。さまざまな小さな中心があるまちは、おもしろいまちだと思います。

進修館は小さな中心のひとつでしょう。「みんなの家」になっています。四季の丘に下校時の子供達が遊んでいる姿はすてきですね。はらっぱパークもすばらしい。新しい村のにぎわいも嬉しいですね。何と言っても、みやしろはまちとむらが共存するすてきなところ！



樋口裕康さん

進修館を設計した「象設計集団」の創始者のお1人。現在は北海道在住。



特別じゃない。いつものこと。
ぜんぜんすくなくない。当たり前のこと。
この町の「ふつうのこと」を集めました。

この風景は、この場所ではよく見る事ができる、いつもの風景です。「奇跡の一枚」と称されたことがあるこの写真も、この時期、この時間に、この場所に来れば、誰でも撮影できる、ごくごく普通の写真です。

このように、誰かにとっては普通のことでも、誰かにとっては特別なこと、というのはたくさんあると思います。むしろ、世の中はそういうもので溢れていると思います。特別なことを求め、新たにそれを作り出そうとしなくても、少し周囲を見渡せば、面白いことはどこにでも存在しています、何よりも特別なことだったりする。ただ残念なことには、当事者にとっては普通のことすぎて、取り立てて表に出ることがない。だから本誌は、そういう巷に溢れた「いつものこと」「あたりまえのこと」を集めてまとめることにしました。出来上がった冊子は、見る人によっては、普通のことすぎて面白みが無いように思うかもしれませんが。でも誰かにとっては、宝の山になるのではないかと思います。

「みやしろPUNCH」という名称は、「インパクトがある」という意味合いと「いろいろなものが混ざった」という意味合いをもつ「PUNCH」という単語を、宮代とくつつけることで「何もないようで、実はすごいことだらけの強烈な町（インパクトある町）」というのと「様々なモノゴトが混ざり合った面白い町」というのを表現した名称です。この冊子が「町中にあるふつうの事」特別な事をたくさん紹介することで、日々の生活が面白くなったりこの町をもっと好きになってもらえれば幸いです。



鈴木鉄工所 鈴木政義さんのお仕事に迫る！

町の鉄工所と聞いて具体的な仕事内容が思い浮かぶ人って、あまりいないのではないのでしょうか。なんとなく漠然と「看板や部品を作ってるのかな」とか「建物や設備を作ってるのかな」とかは思うけれどイマイチはつきりわからない。今回本誌では鈴木鉄工所さんがどんなお仕事をしているのか、そして社長の鈴木政義さんとはどんな方なのか、お話を伺ってきました。



鈴木政義さん
宮代町和戸で鈴木鉄工所を経営。
工場の前に飾られた剣と盾のオブ
ジェが気になっている人もいるの
では？

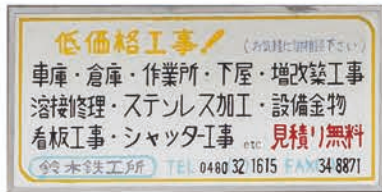


ロケットストーブは鈴
木さんのアイデア商品。



ちょっとしたオブジェ
にもなる蚊取り線香。

なるほど、要は、鉄・ステンレス・金物に関する
ことであれば、とりあえず相談してみればいいよう
です。あとは、工事・修理関係以外に鉄作品の製作
や加工、溶接体験教室なども行われているようです。
鉄工所というと金額が大きい仕事だけかと思いがち
ですが、一般の方が気軽にお願いできたり、教室に
参加できたりと、かなりお気軽な感じみたいです。



鈴木鉄工所さんは、どんなお仕事しているの？
そもそも鉄工所って、どんなお仕事をしているの
か？仕事内容を伺うため、鈴木鉄工所さんを訪問し
ました。工場の外看板には、次のようにあります。



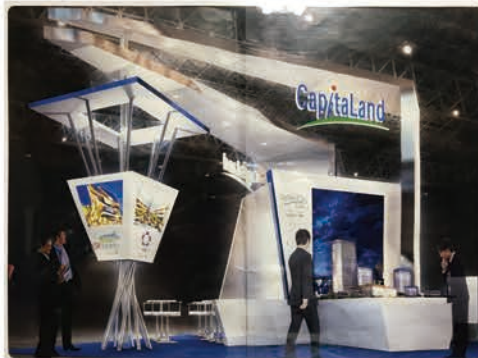
「DIY 趣味の溶接体験教室」の様子。気軽に参加で
きる、本格的な教室です。この日はオブジェになる
ハシゴを作ったそうです。



山崎の交差点近く、笠原落川にある水門（中島水門）
この水門は鈴木鉄工所が手掛けており、毎年田植え
の時期になると、現地に行って作業するそうです。



東武乗馬クラブ&クレイン様向け「乗馬ランド
整地用架台」。鈴木鉄工所製じゃないとダメ！と
お客様からの評価がとても高い逸品。



イベント展示用のパネルオブジェ。構造の複雑さが
質の高さを表していますね。



鈴木鉄工所オリジナル商品「階段緊急避難用器具」。
これぞ、アイデアマン鈴木さんの真骨頂！

宮代町立図書館 館長 清水恭久さんの行動を追う！

宮代町立図書館は「利用しやすい」「雰囲気が良い」「落ち着いて過ごせる」等々とても評判が良く、宮代町内のみならず周辺
地域の利用者も非常に多い人気の図書館です。そんな人気図書館を切り盛りしている館長さんとは、一体どんな方なのか。この
たび本誌では館長の清水さんにお話を伺って、彼がどのような人物で、日頃どのような行動をしているのかを探ってみました。



清水恭久さん
宮代町立図書館長。図書館の良さ
を知っていただくために町内を縦
横無尽に駆け回り、館内ではな
かなかお会いできない方（かも）。



百間小学校に出没！児童に本の読み聞かせ。



進修館に出没！ブックポストの本を回収中。

宮代町立図書館館長の清水さんは、こんな方。
一言で表現すると清水館長は「ザ・関西人」です。
しかも「コテコテの大阪人」です。ある意味、これ
だけで清水さんを語ってしまったような気がします
が（笑）、それでは話が続かないので、もう少し掘
り下げてみましょう。
アグレッシブで神出鬼没。
町内を歩いていると、色々なところで清水さんに
出会います。役場や進修館、小学校や神社、町内の
事業者さんの所や飲食店などなど、本当にいろいろ
な場所でお出会います。図書館の館長さんという
、なんとなく、あまり外には出ず、館長室にどつしり
と腰を据え、俯瞰的に館内を守っているようなイメ
ージがあるのですが、清水さんはそういうタイプの
館長さんではないようです。

現在、宮代町立図書館では、閲覧サービス、貸出
サービスといった図書館の基本サービスの他、様々
な企画が催されています。特に毎月開催している「
ナクソスミュージックライブラリー」では著名な音
楽家に選曲を依頼したり、「回想サロン」では、上
映会のあと利用者さんと茶話会を開催したり、宮代
町に溶け込んだ行事に力を入れています。図書館の
入口で各行事のチラシを来館者に手渡しして声をか
けているのが館長です。清水館長いますか？と館長
に会いに来館される方もたくさんおられます。普段
から、利用者さんと直にふれあい、図書館からの発
信が届いているか、何が求められているかにアンテ
ナを張っています。館長の高いコミュニケーション
力が今後の図書館の発展に寄与していくことは間違
いないようです。
子育て世代や子ども
向けの企画も充実。

すべては宮代町と町民と図書館利用者のため。
ではなぜ、いつも町中を徘徊しているのか？それ
を探るため本誌は清水さんにお話を伺い、少し行動
を共にしてみました。そしてわかったことは、清水
さんが町中を徘徊し、様々な方々に会いに行くのは
すべて宮代町と町民、そして図書館利用者のためだ
ったということです。
町内のいろんな場所に出向くのは、自分の目で宮
代町を見て、この町の図書館をどのような存在とし
て運営するかを感じとるため。町内の様々な人と接
するのは、宮代町の人々がどのような人で、この町
の図書館がどうあれば喜んでもらえるかを感じ取る
ため。清水さん自らはそうおっしゃりませんが、
話を伺い同行した本誌記者はそうのように感じました。
これからも利用者さんのために。

人々のニーズに応える仕事を。

近年の鈴木さんは、町内で開催される企画など
に積極的に参加され、他業種の方や一般の方々と
交流を図られています。その中で人々のニーズを
探り、そこに自分のアイデアを盛り込み、結果、
多くの方に喜んでもらえるようなものを作ってい
けたら！と仰っていました。これまでしてきたよ
うな大きな仕事だけではなく、日常で使うような
小さなアイテムや、緊急時に役立つアイテムなど、
人々の生活のニーズに応えられるようなモノを。
それらの言動からは、鈴木さんの「自分の仕事が
皆の生活に役立てば」という想いが垣間見えます。



宮代町役場・教育推進課との打ち合わせ。宮代町立図書館が町内外
から愛されているのは、町役場と図書館がしっかりと連携をとりつ
つ、二人三脚で歩んでいるからです。



宮代町本田の鈴木工務店さんにて。新着雑誌カバー広告にお申し込み頂いた
そうです。鈴木工務店の社長・鈴木充さんは「会社の宣伝というよりも、地
域貢献、地元への還元のため」とおっしゃっているとのこと。これらの広告
料は本の購入や設備の修繕などに充てられるそうです。

農工房 奈味 並木幸夫さんの歳時記。

「農工房 奈味」さんをご存知ですか？新しい村の「森の市場 結」などで、メイドインみやしろ推奨品の「ゆず香もち」や「塩あんびん」などを販売されているので、その名前をご存じの方は多いと思います。でも、農工房 奈味 はどんな所なのか、どんな人がやっているのか、などをご存じの方は案外少ないと思います。「農工房 奈味」のご主人・並木さんを取材してきました。



並木幸夫さん
姫宮神社の門前で農工房奈味を主宰。くわい・せりの栽培の他、薪で炊いて白で搗いた草餅や塩あんびんの製造もしています。

「農工房 奈味」さんは、いわゆる「〇〇農家」というのではなく、穫れた作物を工房で加工する、つまり、「加工するための作物を育てている農工房の主宰」というのがわかりやすい表現だと思います。ただし全て加工に回すわけではなく、一部の作物はそのまま出荷したりするそうです。また、試しに育ててみたら出来が良かったので、それを加工するということがあるようです。では、いったいどのようなものが育てられていて、どのようなものが作られているのでしょうか。歳時記つばくまとてみました。

並木さんの歳時記

並木さんは、いわゆる「〇〇農家」というのではなく、穫れた作物を工房で加工する、つまり、「加工するための作物を育てている農工房の主宰」というのがわかりやすい表現だと思います。ただし全て加工に回すわけではなく、一部の作物はそのまま出荷したりするそうです。また、試しに育ててみたら出来が良かったので、それを加工するということがあるようです。では、いったいどのようなものが育てられていて、どのようなものが作られているのでしょうか。歳時記つばくまとてみました。

並木幸夫さんについて

お父様が82く3歳の頃病気になって3か月ほど入院。退院して自宅療養していたとき、大好きな農家の仕事をしながら元気になってほしいとの思いから、仕事の休みを利用して手伝い始めたのが、並木さんが農業を始められたきっかけだそうです。お父様が亡くなられたあとも、知り合った宮代町の方々のつながりを大切にしながら農家の仕事を続けていきたいと思い、それまでの仕事を辞めて農業に専念することにしたそうです。

「農工房 奈味」さんについて



土淵保美さん
宮代町川端で、リカー&ワインショップツチブチを経営。地域を支える縁の下の力持ちです。

桜の時期に川端集会所にて開催されるお花見会。集会所の前に咲く見事な桜を見ながら、ちよつと一杯：くわいの気持ちで始めたものが、多くの人が参加するようになったため、会としてそれなりの体裁を整えたのだそう。今では毎年40く50人くらい、多いときには100人くらい集うそうです。

【お花見】

桜の時期に川端集会所にて開催されるお花見会。集会所の前に咲く見事な桜を見ながら、ちよつと一杯：くわいの気持ちで始めたものが、多くの人が参加するようになったため、会としてそれなりの体裁を整えたのだそう。今では毎年40く50人くらい、多いときには100人くらい集うそうです。

【初詣（庚申様）】

毎年、除夜の鐘が撞かれる頃から午前2時頃まで行われる「庚申様の初詣」。土淵さんは初詣の参拝者に甘酒と蜜柑のお振る舞いをされています。庚申様は普段だと気づかず通り過ぎてしまうような出で立ちなのですが、川端の皆さんには、とても大切にされています。初詣の際も毎年100人くらいの参拝者がくるそうです。

【お花見】

桜の時期に川端集会所にて開催されるお花見会。集会所の前に咲く見事な桜を見ながら、ちよつと一杯：くわいの気持ちで始めたものが、多くの人が参加するようになったため、会としてそれなりの体裁を整えたのだそう。今では毎年40く50人くらい、多いときには100人くらい集うそうです。

川端を愛する土淵さん。

土淵さんは川端で生まれ育った生粋の川端っ子。お話を伺っていても、川端への愛情がひしひしと伝わってきます。土淵さんは川端地区を元気に、そして、住みよい地区にするために、様々な活動をされています。それらを少し見ていきましょう。

川端の催事

川端地区における催事は、川端青年会が行っているそうです。川端青年会とは地区に住む有志数名で組織された会で、土淵さんはその中心人物として、次のような催事を行っています。

【初詣（庚申様）】

毎年、除夜の鐘が撞かれる頃から午前2時頃まで行われる「庚申様の初詣」。土淵さんは初詣の参拝者に甘酒と蜜柑のお振る舞いをされています。庚申様は普段だと気づかず通り過ぎてしまうような出で立ちなのですが、川端の皆さんには、とても大切にされています。初詣の際も毎年100人くらいの参拝者がくるそうです。

【お花見】

桜の時期に川端集会所にて開催されるお花見会。集会所の前に咲く見事な桜を見ながら、ちよつと一杯：くわいの気持ちで始めたものが、多くの人が参加するようになったため、会としてそれなりの体裁を整えたのだそう。今では毎年40く50人くらい、多いときには100人くらい集うそうです。



土淵保美さん
宮代町川端で、リカー&ワインショップツチブチを経営。地域を支える縁の下の力持ちです。

【夏祭り】

地区を代表する夏のお祭り。2日間開催で、参加者数百人は軽くいってると思います。土淵さんは当日の下準備のほか、子どもによる山車の引き回しの手はずを整えたりと、お祭りの前から八面六臂の大活躍をされています。

【新嘗祭】

川端集会所に庚申様の氏子をお迎えして開催されます。川端の庚申様は大切にされていますね。

【番外・町民体育祭】

川端の催事、というよりは、宮代町の催事なのですが、川端地区としてはわりと重要な位置づけなのでご紹介。土淵さんは監督的な立場でチーム川端を牽引されています。もちろん目標は「勝利」。日々の練習も欠かせません。体育祭の前日には団結式を開催し、チームのモチベーションをあげてから戦いに臨むそうです。

土淵さんの活動は地域を支える。

これらの催事は、もちろん、第一には「自分たちが楽しむこと」というのがあると思いますが、結果として、そこに集う人がお互い顔見知りになるという効果があると思います。隣がどんな人かわからないより知っていた方が安心できますよね。これらの催事が、地域に住む人々のつながりを作り、安心安全な生活にもつながっていく。そう考えると、土淵さんが行っている活動が地域を支えていると言っても過言ではないような気がします。また土淵さんはこのようにも仰っていました。「川端を元気に、住みよくしたい」という想いのある人が来た時に受け入れられるよう準備をしておく」。今の川端だけでなく、未来の川端のこともしっかりと考えていらつしやる。本当に土淵さんは川端を愛しているんだなあ、と思いました。



令和元年の川端夏祭り。流し踊りの周囲は移動するのでも一苦労な人ばかりでした。



地域のみなさんにとっても大切にされている、川端の庚申神社（庚申様）。

他にもたくさん

歳時記にまとめたものは、主に行っている作業。この他にも、各作業の合間を縫って別の作物を育てたり、不定期で体験企画をしたりと、様々なことをされています。歳時記の内容だけでも凄作業量なのですが、並木さんは好奇心旺盛なんですよ。楽しそう！と思つたら、とりあえず時間を割いてやってみる。でも、そういう方だから、本誌としても注目せずにはいられず、なにかあると並木さんに会いに行きたくなってしまうんです。是非、これからも注目していきたいと思います！



農工房で開催する草餅づくり体験では、作り立ての味が楽しめます。



「タケノコ」掘りの様子。写真は「タケノコ掘り体験」のときの様子です。



収穫直前の「せり田んぼ」の様子。「せり」はそのまま出荷されます。



9月の「くわい田んぼ」の様子。「くわい」はそのまま出荷されるほか、「ゆず香もち」の材料になります。

■ 1月	「七草」「くわい」出荷。	■ 7月	「タケノコ」肥料やり、草刈り。
「くわい」出荷。		■ 8月	「くわい」肥料やり、葉欠き。
「くわい」出荷後に種を残す作業。		■ 9月	「タケノコ」肥料やり、草刈り。
■ 2月	「タケノコ」肥料やり。	■ 9月	「七草」種まき。
「草餅」出荷。		■ 10月	「せり」苗作り開始。
■ 3月	「せり」収穫。	■ 10月	「あんびん」出荷。
「草餅」出荷。		■ 11月	「ゆず香もち」出荷。
■ 4月	「タケノコ」掘り。	■ 11月	「あんびん」出荷。
「草餅」「あんびん」出荷。		■ 12月	「せり」「くわい」収穫。
■ 5月	「タケノコ」穂先止め。	■ 12月	「タケノコ」竹切り。
「草餅」「あんびん」出荷。			「のしもち」出荷。
■ 6月	「くわい」を植える。		「七草」収穫、出荷準備。
「タケノコ」肥料やり。			
「あんびん」出荷。			

～PUNCHさんがゆく～ 姫宮落川に沿って歩いてみた

宮代町に関係する人であれば、一度は耳にしたことがあるであろう「姫宮落川（ひめみやおとしがわ）」という名称。宮代町のほぼ中央を流れ、宮代の歌「～Song For Miyashiromachi～」の歌詞の中にも出てくるこの川は、宮代町を代表する川の一つといっても過言ではないでしょう。そんな姫宮落川ですが、桜の時期に一部の場所は注目されるものの、他の箇所がどうなっているのか、案外知らない… ということで本誌記者（PUNCHさん）が姫宮落川沿いを歩いて取材してきました。

姫宮落川は延長約10km（うち宮代町内を流れるのは約4.5km）の中川水系一級河川。江戸時代に笠原沼（現在、東武動物公園がある場所）を干拓する際に掘られた排水路が起源だそうです。（ちなみに現在も排水路。）久喜市下早見を起点とし、そこから白岡を経由して東叡原に入り、川端で大落古利根川に合流します。笠原あたりまでは自然のままの姿に近い感じで、道佛に向かいながら徐々に河岸整備されていくような感じです。今回歩いたルートは、川端の大落古利根川合流地点から、なるべく姫宮落川沿いを歩きながら、東叡原と白岡の町境（東武動物公園の宮代・白岡にまたがる通路の所）まで。前半はわりと整備されていたので歩きやすかったのですが、後半は道なき道を雑草をかき分け進まなければならなくて大変でした。冬だったら、雑草も枯れててよかったかもしれません。あと道中何度も桜の木を見ました。春先はカメラ片手に散歩とかもいいんじゃないかなーと思いました。



⑧ 東武動物公園横、六花の裏。

東武動物公園の横を沿ってしばらく歩き、医療福祉センター六花の裏手まで来たあたりの風景。道も徐々に自然な感じに。右に中須用水につながる水門が見えます。



⑦ 笠原小学校前の風景

宮代町の代表的なお祭り「桜市」会場となる、笠原小学校前の風景。姫宮落川のイメージと言えばココ！という人も多いのでは。写真は赤い笠原歩道橋の上から。



⑥ 稲荷橋を臨む風景

保健センター付近の稲荷橋を河岸から見た風景。ここが桜の時期にどうなるかは言うまでもありません。桜市会場から外れた場所ですが、必見のポイントです。



③ 姫宮落川橋梁

「明治30年代に作られたポータル型プレートガーダー橋。橋台は煉瓦造りで、大変貴重なもの。」だったのですが、今はご覧の通り、作り変えられちゃいました。



② 姫宮橋からの眺め

2012年4月に完成した「姫宮橋」からの眺め。橋の架け替えだけでなく、河岸の改修や県道（春日部久喜線）の拡幅工事を行ったため、約3年かかったそうです。



① 大落古利根川との合流地点

久喜市下早見から始まる姫宮落川のゴール地点。対岸は杉戸町。昔はよく川が決壊したそうですが、首都圏外郭放水路の完成で今は水量も安定しているそうです。



⑪ 宮代町の姫宮落川スタート地点

川は左側にあるのですがここでは見えません。前の橋は東武動物公園の通路。右下に見える鉄板は、一部の人々に「伝説の盾」と呼ばれているシロモノです。



⑩ 高岩落との合流地点

白岡市高岩が起点の高岩落との合流地点。白岡市高岩からすると終着点。左が姫宮落川、右が高岩落です。ちなみにここまでの道中、道なき道&周囲は蚊だらけでした。



⑨ 桜並木と東武動物公園

簗屋橋と渋谷橋の間くらいの場所。すばらしい桜並木です。道中は草ぼうぼうでしたが、このあたりはわりと歩きやすいです。桜の時期に訪りたい場所です。



④ 姫宮水管橋

道佛にある全長53.5mの水管橋。昭和56年3月に完成。姫宮落川のすぐ横を流れる笠原沼にもまたがっています。水道管に流れているのは行田浄水場でつくった水。



⑤ 宮代幼稚園から道佛橋方面の眺め

左横に見えるのは桜の木。この周辺は桜の時期になると、素晴らしい絶景ポイントになります。水管橋あたりから道佛橋を渡って、その先ずっと絶景が続きます。

みやしろ市民ガイドクラブ 千葉庄一さんに助言をいただきました。



みやしろ市民ガイドクラブのシンボルマーク。「歴史（れきし）」とは「歴史」と「自然」をあわせた造語。

今回、姫宮落川を歩く取材をするにあたり、事前に「みやしろ市民ガイドクラブ」の千葉さんにいろいろ情報をいただきました。「みやしろ市民ガイドクラブ」というのは「歴史や自然、文化や建築物など幅広い分野の魅力をガイドするなど、宮代町の魅力発掘のための研修会を中心に活動している市民活動団体」です。「宮代町は歴史や自然、文化や産業、建築物など幅広い分野で可能性が高いので町の魅力を発掘し、楽しんで勉強を重ねながら多くの方々に宮代の魅力を伝えたい。」と語る千葉さんに、取材前「何か着目すべき情報はないか、知っておくと道中楽しくなる情報はないか」などを伺いました。そして事前に教えていただいた情報が「姫宮落川橋梁」と「姫宮落川は笠原沼の干拓時に整備された排水路が起源で、自然を生かした流路が特徴」というものです。この情報は今回の取材に際し、とても役に立ちました。また本件とは別件で、宮代町にまつわる、いろいろな歴史や情報を教えていただきました。次号ではもっと千葉さんにいろいろ教えてもらって企画を進行していこうと思っています。



千葉庄一さん

みやしろ市民ガイドクラブで活躍。「みやしろ伝々虫」として宮代町の魅力を伝えています。

みなさまのアルバムから

■ 当時の思い出



宅地は畑ではなく田園で昭和45年のはじめに購入しましたが、見渡す限り田園が続いていて、「こんな所に家を建てて大丈夫か」と懸念しました。業者には横を通る道路より1m高く盛土をするように依頼しました。

そして7年後に米国転勤より帰国し、家を建てる頃には同様に盛土された土地が広がっており、家もぼつぼつ建て始められていました。（現在は完全な住宅街です）

近所の学園台も整地が終わり、家が建て始められていました。息子たちは、歩いて10分位の笠原小学校はまだできておらず、約50分かけて須賀小学校に通いました。午前7時頃集まって、7、8人の班で冬は西風に向い、教室では寒いのでストーブを焚いていました。



新校舎は建築中で古い校舎でした。

帰りは同級生達と1時間以上かけ、特に夏のかんかん照りの日、又雨の日は大変でした。

宮代町内に長年住んでいらっしゃる方のアルバムから、ちょっと写真を拝借。写真にまつわるエピソードや昔の宮代町、宮代町への想いについてお話していただきました。

■ 姫宮今昔



岡村信夫さん
宮代町の東地区のこと、五社神社や西光院のこと、岡村さんに聞くと何でもわかります！
宮代高等学校評議員も努めていらっしゃいます。



この写真は、昭和30年代初めの姫宮駅から南に300メートル行った踏切近辺から、私と東京新宿に住む親戚のK君を撮ったものである。現在は姫宮東団地として住宅が密集しているが、当時は全くの田園で隔世の感がある。東武伊勢崎線本線を、写真のような蒸気機関車や電気機関車が日に何本か通っていた。K君は田舎が珍しく、毎年夏休みという2週間程度我が家で過ごし、ザリガニやタニシを取ったり川で遊んだり私と兄弟の様に過ごした。逆に私が新宿に遊びに行き、当時の宮代では絶対にお目にかかれなかったデパートのエスカレーターに何度何度も繰り返し乗ったことが懐かしい。

宮代も人口が増え都市化が進んだが、一方、少子高齢化の波をまともに受けて停滞期にある。今更昔の様にほならないと思うが、住民皆で力を併せ、若者が住みやすい街を作っていく必要がある。

私が住む東地区は姫宮駅から10分と近い上、姫宮保育園、宮代高校があるなど教育環境に優れている。そのためか若者の定住が進んでいる。また徳川家康が崇めた西光院や県指定有形文化財の五社神社がある。この歴史的な遺産を地区の活性化に活用して行きたい。そのためには町との協働が必要と思っているが、老骨に鞭打って、道筋を付けなければと考えている。

■ 私の生き方



喫茶店を始めて、45年になります。

接客のマナーをそれなりに習んできたつもりでしたが、相手が何を考え、何を望んでいるのか、どうしてほしいのかをつきつめると、自分がしてきたことが正しかったのか疑問です。

東口商店会、又、町道づくり協議会にたずさわり12、3年、方向性が良かった事なのか、考える事が有ります。誰の為にそうしてきたのか、常になやんでいます。ここ近年に開発出来るという事は、良かったと思う反面、なぜか、とても複雑な気持ちです。

私の信条は「1人で見える夢はただの夢、みんなで見る夢は実現する。」これは小野ヨーコさんの言葉です。



岩崎はやてさん
夫の裕二さんと共に「ティーサロンすみれ」を経営。レザークラフト作家としても活躍中。



■ あたたかい記憶の中で



柴田玲子さん
宮代町立東小学校校門前の新井商店にて書道教室を主宰。書家としての雅号は「春賞（しゅんしょう）」。



今を生きる私達ですが、遠い記憶というのは映像として心に残っています。その記憶がとてもあたたかかったり楽しかったり、相手の心遣いが有難かったりしたら、自分の中にその記憶が蓄積されている訳ですから、今現在もあたたかな気持ちで暮らせるような気がします。決して豊かではなかったけれど、便利ではなかったけれど、それがまた懐かしく思い出されます。

何気ない日常でも、親類や近所の方々みんながつながっていて、私には心地良く大変有難かったです。そして不思議な事に気が付きます。そのあたたかな記憶は今も脈々と絶える事なくつながっているのです。末っ子で我がままな私ですが、皆さん良くして下さい、幼い頃のようなたたかさを接して下さいなのです。幼い頃の原風景と共に今も私の中に生き続けているのです。あたたかな記憶に包まれているお陰で現在も心豊かに暮らせると言っても過言ではないでしょう。

現在は危険だと見られなくなったメリーゴランド、登り棒、ブランコ、スベリ台と並んでいます。左側に少し見えるのは東小の低い塀と広がる田園風景です。（約五十年前）



中央の兄に抱っこされているのが私です。五人兄弟ですが、プラス従兄弟です。まだ道は砂利道で、東小の塀は金網、クラシカルな叔父さんの車のうしろに当時のブロックで作られた正門が見えます。（約五十五年前）



井上敏夫さん
現役時代は家族と一緒に海外と宮代で生活。現在は太極拳で活躍中。



岩崎裕二さん
東武動物公園東口にて「ティーサロンすみれ」を経営。東口商店会会長として地域を支える心強い存在です。



かしんだま文庫 野口和子さんにお話を伺いました。

先日のこと。本誌の企画にご協力いただきたく、かしんだま文庫の野口和子さんの元を訪問しました。到着して、企画の話始める前に野口さんが「プラネタリウム作ったの」と切り出されたので、皆でその場にプラネタリウムを組み立ててみました。寝転がって星空を見ているととても良い気持ち！ ということで今回は、その「自家製プラネタリウム」について伺いました。



野口和子さん
宮代町東桑原で地域の縁側のような「かしんだま文庫」を主宰。近所の方と一緒にストレッチ体操の会などを開催しています。



かしんだま文庫
元小学校の先生だった野口さんが子どもや地域の方々と接する機会を求め自宅を改装して作った憩いの場。「かしんだま」とは「どんぐり（樅の実）」のこと。



「プラネタリウム作ってみました」
【あったらいいな】
「プラネタリウムがあったらいいな」
小学生の時に学校で見たプラネタリウムにあこがれて…あれから半世紀

【いいけど難有り】
天空のドーム作り。
ネットで調べると三角形のダンボール紙を組み立てて作るのがあった。
おもしろそう！
工作用紙でミニチュアを作ってみる。
いいね！
でもダンボールだと組み立てるのが大変そう、天井にあげるのも大変そう、それにしまつて置く場所が無い。



【布のドームで いいかんじ】
骨組みは農業用のU型支柱をゆるく伸ばして、天空の白布は近所の方にいただいたのを縫って…
布を支柱にかけて天井に上げると、布がダランと下がつて天空になってない。残念。
しなやかに曲がる農業用トンネル支柱を使って、布をピンと張つたら…オ、いいかんじ。



【楽しみ 楽しみ】
星の投影機をロクロの上に置いて回すと、天空の星空が動きます。
BGMをかけ星座のお話などやって、みんなと一緒に楽しみたいな。

姫宮成就院幼稚園 齋藤恵子さんにお話を伺いました。

幼い頃の記憶というのは、誰にとってもかけがえのないもの。その記憶の中でも大きな割合を占められる幼稚園に長年勤務されている齋藤恵子さんは、多くの子ども達の記憶に携わってこられたことと思います。今回本誌では、そんな「けいこ先生」に、どのような思いで幼稚園に勤務されているのか、嬉しいことや驚いたことなどなど、いろいろお話を伺いました。



齋藤恵子さん
子どもたちを温かく見守り続ける姫宮成就院幼稚園の「けいこ先生」。最近では教え子に在園保護者として再会することもある。

ご縁に感謝
私は四季を感じられるこの町が大好きです。職場は田んぼに囲まれたところにあり、緑のじゅうたんや黄色のじゅうたんに変化する田に心を癒され毎日子ども達の元気な姿にパワーをもらっています。
小さいころの夢は小学校の先生でしたが、赤ちゃんや小さい子の面倒を見る事があり保育の道を目指しました。そしてご縁があり今の幼稚園に就職しました。一年目は、子ども達と沢山遊び会話をして毎日くたくたになりながら無我夢中で過ごしていたような気がします。時が過ぎ結婚や出産などの岐路にたつた時、子ども達の元気な姿と笑い声に後押しされて続けていく中で、私はこの仕事が好きなんだと改めて感じました。
日々を過ごしていく内に、中学生の職場体験や大学等の実習関係で来園する学生の中に卒園生の名前があり嬉しくなります。また、小学校・中学校の卒業の後、懐かしくて遊びに来たよと来てくれる子もいます。その時、「え〜こんな小さい椅子と机だったの?」「あ〜ここ覚えてる」と言いながら歩く姿に幼稚園時代の姿が重なりいろいろな話しをして楽しい時を過ごしたりします。もっとびっくりしたことは、卒園した子が父になり母になりお子さんが入園してきたときです。男の子はすぐにわかるのですが、女の子は姓が変わり何となくどこかであつてい



両脇のお二人は、けいこ先生が送り出した卒園生。現在、姫宮成就院幼稚園と一緒に仕事されています。

ような?と思ひながら話をするとお互い納得したりします。そして我が子に「パパが幼稚園の時の先生だよ。」「ママもこの幼稚園だったんだよ。」と伝えているときの姿を見ていると嬉しさや月日の流れを感じます。ちよつと余談ですが、運動会の種目の中に卒園生競争があります。以前は、小学生や中学生の姿が主でしたが、最近は大入の方も参加してくれるようになりました。たくさんの方が戻つてきてくれることに感謝です。
日々新しい記憶とともに成長していく子ども達の中に、親子で過ごした幼稚園時代の楽しい思い出が大人になつても記憶のどこかに残つてほしいと願ひながら今日も子ども達とたくさん触れ合ひたいと思います。



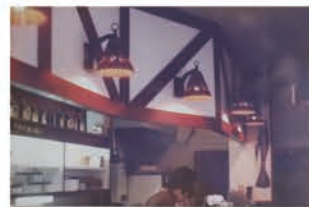
パロキアの記憶

2016年11月、1977年から宮代町中央で営業を続けていた人気の喫茶店「パロキア」が、建物の老朽化のために閉店しました。パロキアさんは現在、久喜市菖蒲にある菖蒲文化会館（アミーゴ）の1階にて営業を続けていらっしゃいますが、今でも宮代町からの多くのお客さんが訪れてくるそうです。多くの人々から愛されるパロキアさんに、宮代町での思い出を聞いてきました。



榎垣豪男さん

喫茶パロキアを経営。ファンの多かった宮代町のお店は惜しまれながら閉店し、現在は久喜市菖蒲で元気に営業中！



宮代町に「パロキア」誕生。
パロキアさんの開店は1977年。榎垣さんは高校卒業後、18歳の若さで店をオープンしたそうで、当時の西口には喫茶店はなく、スーパーのような商業施設も進修館もない、踏切は自動ではなく手動、周囲の道は砂利道といったような状況だったそうです。
オープン当初のお客様は、役場の方や日本工業大学の学生が多かったとのこと。後輩がいた（榎垣さんは工業高校出身）そうで、お店は朝から晩まで、たくさんの方で賑わっていたとか。
閉店間際には昭和レトロ感満載だった店内も、オープン当時は最先端のデザインで、当時はまだどこにもなかったカフェバーのスタイルをいち早く取り入れるなど、時代を先取りしたお洒落なお店だったようです。また当時はビザ自体が珍しく、そういった意味でも、他にはない店として重宝されていたようです。

人々が集い、交流する場所に。
しばらくすると、いろんな業種のお客様が来るようになり、お店はさらに大賑わいに。待ち合わせに利用されたり、仕事の取引が行われたり。勉強しに来る学生さんもいたとか。そして「マスター、〇〇が出来る人いない？」といった相談を受けることもあったそうで、その際には、他のお客様で〇〇ができる人を紹介したりしたそうです。そういった形で、お客様同士の交流も行われていたんですね。他にも、パロキアさんが主催のソフトボール大会やテニス大会、さらには、スキーツアーやバーベキューなども開催されていたとか。パロキアさんを中心に様々なコミュニティが醸成されていたんですね。（次回につづく）

パロキアさんのファンの方にお話を聞きました。



パロキアといえばジンジャーパスタ！という方が多いですね。ちなみに本誌記者的には、パロキアといえばビザ、カレーパスタ、そして、今はもうお目にかかれない星型の氷！というのも外せないです。

宮代って、喫茶店少ないじゃないですか。「ザ・喫茶店」みたいなパロキアがあったのは、宮代にとって良かったんじゃないかなって思うんだよね。おいしいコーヒーをそこで飲む。常連さんも多いけど、ふらっと入れる。私なんか行つたのは居心地がいいから。若かりし頃から行ってたけど、OL時代に地元の友達と会ったのにパロキアに行つた。行ったら絶対「ジンジャースパゲッティ」。たまには他のを頼もうかな？と思って違うのを頼んでも、「やっぱりジンジャーだな」と。オリジナルでやってるから、どれもおいしい！



横溝順子さん

スポーツと音楽とおいしいものをこよなく愛する、ワクワクを忘れない人生の達人。

小学生にレンズ付きフィルムを渡してみた。

レンズ付きフィルム… 世代によっては「写ル〇です」といった方が分かりやすかも。昔は観光地や学校など、ちょっとした撮影によく使われていたレンズ付きフィルムですが、デジタルカメラが一般普及した昨今では、あまり目にしなくなりました。しかし本誌では、あえてコレに着目。レンズ付きフィルムを知らない世代であろう小学生に渡して、一昔前の気分を味わってもらいました。お題は「宮代町を撮ってきて」。はたしてどんな写真が撮影されたのでしょうか。



須藤陽大くん

遊び・体操・学校生活を日々全力で楽しむ、笑顔が眩しい小学6年生！

今回初めて、インスタントカメラを使いました。使い方が分からず、姉に使い方を教えてもらいました。覗くところの範囲が、とても狭いので、撮るのが難しかったです。また、デジカメと違って、撮った写真が、すぐに見れないので、出てくる写真が楽しみです。また、インスタントカメラを使いたいと思いました。



これらの写真は「いつも遊んでいる場所の、一番好きな風景」とのこと。進修館も被写体選ばれていますね。デジカメと違って、撮っている時点ではどのように映るのかわからないので大変だったと思います。今回撮った写真を見て「撮ってる時の見え方と違って、こんな風に写るんだ」と思ったのではないのでしょうか。